第５回　小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会　議事録

日　　時	令和２年 11 月 12 日（木）　13 時 30 分～15 時 00 分
場　　所	小牧市役所本庁舎 6 階 601 会議室
出 席 者	**【委員】（名簿順）** 長岩　嘉文　　日本福祉大学中央福祉専門学校 校長 前川　泰宏　　小牧市医師会代表 浅井　宏昭　　小牧市薬剤師会代表 田中　秀治　　小牧市社会福祉協議会代表 木村　正尚　　小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 米井　ちさと　春日井保健所代表 土佐　知美　　小牧市介護支援専門員連絡協議会会長 伊藤　里美　　小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 江口　はづき　介護施設代表 入谷　陽祐　　小牧市介護保険サービス事業者連絡会 訪問看護部会代表 四宮　貴美子　小牧市内地域包括支援センター管理者代表 加藤　三紀子　ボランティアグループ日向ぼっこ代表 鈴木　斉　　春日井公共職業安定所代表 水谷　幸一　　連合愛知尾張中地域協議会代表 長田　孝子　　小牧市老人クラブ連合会代表 志村　優範　　小牧市区長会連合会代表 桑山　美知代　公募委員 小林　静生　　公募委員 **【欠席委員】** 関谷　みのぶ　名古屋経済大学教授 佐々木　成高　小牧市歯科医師会代表 **【事務局】** 松永　祥司　　福祉部 次長 西島　宏之　　福祉部 地域包括ケア推進課長 平手　明仁　　福祉部 介護保険課長 永井　政栄　　健康生きがい支え合い推進部　健康生きがい推進課長兼文化・スポーツ課長 　泉　重雄　　健康生きがい支え合い推進部　保健センター所長 野村　有紀子　福祉部 介護保険課保険資格係長 倉知　佐百合　福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係長
傍 聴 者	２名
配付資料	資料１　　第８次小牧市高齢者保健福祉計画の素案 当日資料　配席表

１．開会

（１）あいさつ

・長岩会長あいさつ

２．議題

（１） 第 8 次小牧市高齢者保健福祉計画の素案について

・ 事務局より、資料１：第 8 次小牧市高齢者保健福祉計画の素案について、説明。
・ 質疑、主な意見は以下の通り。

長岩会長）

・ 新しい生活様式などが少し記述されているのと、P61 に災害や感染症に備えてがある。
・ 具体策ではないが、この時期の計画立案、コロナ禍での計画というのを事務局も意識している。
・ P134、SDGs の説明があり、自治体、民間企業も含め持続可能な開発目標へ取り組んでいる。
・ 本計画で言えば、3：すべての人に健康と福祉を、11：住み続けられるまちづくりをなどが主に関わってくるところだと思うが、それを付けている。
・ 第 7 章、質が高く安定した介護保険事業の運営、計画値が空欄の項目もある、例えば P107 の施設整備については次回示すとの説明であった。事務局が思案しているところだが、本日の委員会で意見をいただいても良いと考えている。
・ P105、(2)、①の待機者調査では 109 人となっている。いくつかの市町村に関わっているが、待機者に声をかけても入所を断られることも少なくない、空きベッドがあるのに待機者が存在しているということも小牧周辺で聞こえてくる。施設整備計画をどう考えるか。
・ P109 以降、横ばいや増加傾向と記述があるが、令和 2 年度の数値は落ち込んでいるものもある。With コロナと見立てれば、回復せずに落ち込んだままになるかと考える。

田中委員）

・ 第 7 章の推計値を考えるにあたり、介護現場は非常に厳しいと考える。コロナの問題と、介護の担い手不足という問題があり、推計値については、現場の方の声をお聞かせ願いたい。
・ P75、地域支え合い活動の推進にあるが、担い手を育成する人材育成について、以前は生活支援のための人材育成で緩和されたサービスや無資格者への養成などがあった。今後どのようにしていくか、計画の中での記述の仕方が気になった。
・ P85、地域における支え合いの仕組みづくりのところで、包括支援センターでは専門職を含め地域ケア会議を行い、一人一人の生活支援を考える会議を実施しており、そこで出た地域の課題をふくし座談会で取り上げ、解決に向け考えていくという取り組みを築いているところであるため、わかりやすく図で示してもらうと良い。
・ P86、本人の意思を尊重した支援の中で、ACP、アドバンスケアプランニングという、本人の意思決定による人生の選択というものを小牧市在宅医療・介護連携の中で推進していくとしているので、その内容も入れると良い。

長岩会長）

・ P75 については、支え合い推進員の表現の話で良いか。

田中委員）

・ 無資格者の人材育成があったのが、今はどのような形で実施しているのかわかりにくいのでその辺りの説明があると良い。

長岩会長）

・ P132 の生活支援型、訪問支援型、基準緩和のサービスなどのことか。
・ この件に関して現状はどうか。

事務局）
・ P132 の関係は、無資格者を対象に昨年度研修を実施したが、一般の方からは 1 名、施設の方が 2 名、計 3 名の方が参加となった。今年度も企画はしたが、新型コロナウイルス感染症の影響から研修開催をしていない状況である。

長岩会長）
・ P132 の基準緩和のサービス関係は、小牧市に限らず他市も苦労している。人材の確保は難しく、事業を開始したとしても採算が取れないことも懸念される。
・ P84、85 の地域支え合いの仕組みづくりは図示することでイメージが湧くのではないかということ。
・ P86、本人の意思を尊重した支援のところで、アドバンスケアプランニング、終末期の方が最後にどうしてほしいのかという意思表示をし、それに沿った医療を提供するといったことも話題となっているので、入れてはどうかということ。

米井委員）
・ P116、短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護で、表の延べ日数（日）・延べ人数（人）など実績値は減少しているが、文章は横ばい傾向や微増となっており表現が一致していない。
・ P116、計画値は「0」が計画値なのか、次回委員会時に値が入るということか。

事務局）
・ 次回委員会時に精査したもので提示する。

米井委員）
・ 難病の申請があった方のうち、70 歳以上の方の 30%が神経難病であった。医療型ショートステイというサービスを必要とされる方は増えていく傾向にあると考える。

長岩会長）
・ 日常的に入所で受けられるのか、ショートで受けられるのかというのは利用者側、ご家族からすると大きなテーマだと考える。
・ 令和 2 年の数値をコロナ禍でどう表現するのかは難しいところであり、令和元年で落ち込んでいる数値も多く横ばいと表現してよいものかどうか。

江口委員）
・ 待機者が 109 人ということだが自分の施設の定員は 80 名であり、4 月から現在までに 17 名の方、約 4 分の 1 の方が退居され新たに入居している。
・ 自分の施設では、要介護 3 以上からとなるため、対象者が少なく、入居者を探している状態。
・ 今の場所を変わりたくないという方や、コロナ禍なので面会もできないため今は見送りますという方が多い。
・ 名古屋にも施設があるが、3、4 年前から入居者を探している状態である。それが、小牧でも同様となっている状態。
・ P123、認知症通所介護の計画値の値、令和 3 年度から非常に多くなるが、今までの実績値を見ても、実際の現場から見ても、ここまでは多くならないのではと考える。

長岩会長）
・ 計画値に合わせた施設整備としないと、計画として辻褄が合わなくなる。その辺りを考え、計画値も含め検討をしてもらいたい。
・ 入所施設の待機者が存在するのは事実だが、総量として、隠れた待機者が居るのかどうか。
・ 名古屋は、名目上、3,600 人の待機者が存在するが、空きが 400 床あり、矛盾が生じている。

・　早めに申込みをした方もたくさんいると思うが、空きがあるという状況はあまりなかったため、行政判断が難しくなっている。

入谷委員）

・　訪問看護のおおよその数値は見込のとおりと考える。ただ、訪問看護で難病といわれる方が増えており、訪問回数も増えてくるのではと考える。

長岩会長）

・　今年度の訪問看護の回数はどうか。

入谷委員）

・　自分の事業所に限っては増えている。

四宮委員）

・　P121、居宅介護支援の延べ人数は、増加で見込んであるものの、もう少し増えるのではないかと考える。
・　P93、認知症施策の推進において、各地域包括支援センターに認知症地域支援推進員が１名配置されており、認知症に関する相談件数も増えている。この推進員に触れる内容を入れても良いかと考える。

長岩会長）

・　P95、認知症初期集中支援チームの設置は記載があるが、同時期に設置された認知症地域支援推進員の記載がないので検討していただきたい。

土佐委員）

・　人材の育成について、サービスの希望があっても依頼できる事業所が少ないことや、認知症対応型通所介護の数値を確認したが、施設への受け入れができないことなど乖離があると考える。

長岩会長）

・　人材の確保について、1 市町村ですぐに有効な施策が打ち出せるわけではないと思うが、いかがか。

事務局）

・　研修を実施し、介護人材の育成を図れればと考える。

長岩会長）

・　集まっての研修がとてもやりにくい環境であるため、有効な研修となるかは不明だが、介護の研修をリモートで行い、それに対する支援があってもよいと考える。

伊藤委員）

・　P108、総合事業に移行したということで人数が少ないと思うが、要支援認定者の方が多く利用しているので、総合事業の人数も掲載した方がよい。
・　人員不足により受け入れが難しいという案件もあり、人員の高齢化、若い担い手不足の中、高齢者の人数は増え、訪問介護を利用する人数が増えるということであれば、人材の育成よりも人材の確保が課題と考える。人材を確保する点において、皆さんからのご協力や助言、市内、市外を問わず協力を得られるような体制を考えていただけたら非常にありがたい。

長岩会長）

・　P108 に要支援者を表示するとしたら、P132 の介護予防訪問型サービスや生活支援訪問型サービスの数をということか。

伊藤委員）

・　移行して名称が総合事業ということになったが、介護予防の人数は非常に多いと思うので、その数値は、表示した方が要介護の方、要支援の方と把握ができるのではないかと思う。

小林委員）

・　人材育成、担い手の問題をすごく感じている。第 5 章には、各種人材養成講座の開催とあり、区

長、民生委員・児童委員、地域協議会なども言葉として記載があるが、実際の自治会の活動では、区長の成り手がなかなかいない、民生委員・児童委員にも欠員が出てしまうこともあるという現状。

・ P57、小牧市まちづくり推進計画の基本施策の展開方向に、地域福祉活動に参加する担い手を育成・確保とある。この場とは少し異なるかもしれないが、市としてどこまでフォローできているのか、第5章をみて感じたところである。
・ 良い点として、P56に第7次計画から得られた課題がしっかり記載されており、高齢者の健康づくりの推進とアクティブな高齢者の地域活動への参加促進、認知症の人や要介護者が自分らしく安心して生活できる体制の整備というように、第7次計画の課題を踏まえて第8次計画を策定しているところ、また、P57の下表の図は具体的に4つの分野にわけ、それぞれが必要とするという表現は良い。

長岩会長）

・ ご指摘のあった地域福祉活動に参加する担い手は、介護保険においても総合事業の生活支援サービスと重なる部分が多く、非常に大事なところであるが、なかなか難しい。
・ 介護保険の担い手も在宅を中心に不足している。ともに大きな焦点である。

桑山委員）

・ 市民の立場からの感想だが、やはり言葉が難しいと感じる。例えばP107の介護老人福祉施設、介護老人保健施設の違いや地域密着型介護老人福祉施設などもあり、利用したいと考える人がどの施設を利用するべきか計画の中にある必要はないが、実生活の中でわかるようなアナウンスがあると良いと思う。
・ 人材確保の話が先ほどから挙がっておりますが、主婦の力を活かすことができればと考える。行政を離れたところで、ご近所付き合いの中、助け合い、お節介のようなことができれば良いと思う。

長岩会長）

・ 潜在的にはまだ開拓の余地があるご指摘かと思う。以前は主婦層の方で、子育てが終わり、地域の活動、福祉活動を担う方がいらっしゃったが、その主婦層の方自体が減少しており、担い手としての開拓が難しいのかと思っていたが、工夫することで担い手の確保ができるかもしれない。
・ 施設の名称がわかりにくいことは、相談の際に介護支援専門員の方や施設の方が説明されていることかと思う。

志村委員）

・ 介護保険の計画値は、高齢者が増えるから単純に増えるというものでもないようなので、現場の方へ需要と供給は成り立っているのかなど調べた方が良いと考える。勘で数値を計算しているわけではないと思うが、数値にはよく現われるので、現場の方へよく聞いて、数値を決めていただきたい。
・ 新しい生活様式という言葉は良く使われる。P59に最初に出てくるが、新しい生活様式とは何かということを具体的に記述した方が良いと考える。

長岩会長）

・ 今回策定する計画値は予測が難しいとは思うが、感染症、令和2年度の落ち込みを加味しつつ、どのように表現するかは考えていただきたい。
・ 考えたうえで、仮に読み間違えて計画値と多少の差があったとしても、サービスの利用状況や数に影響はあるものの、保険料に大きな影響を及ぼすものでなければ良いと考える。

水谷委員）

・ P100、第7章の質が高く安定した介護保険事業の運営、現況と課題に、人材確保が大きな課題と

あるが、数値として表現できるものがあれば、今後検討を進めやすく、ホームヘルパーなどの介護ができる人の推移があればと思う。

・ 介護が必要な方が増加するのは資料から理解できるが、人材が不足しているということは、現職の方への負担が増えることだと思うので、ICT や介護ロボットの活用など、負担を減らすために適切な施策を検討するための現状として、ホームヘルパーなどの介護ができる人の数値があると良い。

浅井委員）

・ 今年度の計画策定は、新型コロナウイルス感染症のこともあり非常に難しいと感じている。
・ 先日、情報提供があり、インフルエンザの感染者数が昨年度と比較して 100 分の 1 程度であった。
・ 消毒などの衛生習慣がかなり根付いたためだと思われる。居宅療養管理指導を行っているが、緊急で出動する機会は減少するのではと見込んでいる。この 1 年で衛生習慣が身に付けば、新型コロナウイルスが終息した後も衛生習慣は残ると思うので、3 年後、5 年後というのはこれまでと状況が大分変わるのではないか。そう考えると、計画を策定するのはなかなか難しい。

前川委員）

・ 医師会、医師の立場からの意見は特になく、皆さん計画の内容や数値まで細かく読み、しっかりした発言をされていると感じた。

加藤委員）

・ ここ 1 年は、ボランティア活動が少なかった。ボランティアにおいても人材不足は課題に挙がっている。

鈴木委員）

・ 求職者と企業を結ぶ調整機関として思うところはある。介護関係を希望する求職者は求人者に比べて少ない。
・ コロナ禍においても企業からの求人はあり、ハローワーク春日井のフルタイム・パートの求人倍率は約 2 倍から 4 倍になっている。9 月における全体の求人倍率は 0.95 倍であるが、介護関係の求人者は人手不足だと感じる。
・ 人材確保の支援として間接的ではあるが、ハローワークには職業訓練校があり、ハロトレと呼んでいるが、そこで介護関係の訓練も 3 カ月間で実施している。
・ この情報を提供する場がハローワークの中だけでは限界があると感じており、市役所に来庁された方へ、職業訓練校があることの周知、情報提供をしていただくと良いと思う。
・ もう 1 つは、助成金の活用、離職率を低下させるための仕組みづくりが必要だと考える。
・ 労働局には人材確保の助成金があり、介護の機器の導入や賃金の底上げなどで離職率を下げる取り組みをした場合、助成金が交付される仕組みがある。
・ どちらも間接的ではあるが、情報提供の場を市を中心に広げていただき、企業に知ってもらうことが重要だと考える。

長岩会長）

・ 人を採用するというところと、継続して働くためにというところ、両方の仕組みがあるということ。

長田委員）

・ 11 月 10 日に小牧市老人クラブでグランドゴルフ大会を行い、39 チーム、234 名が参加した。
・ 最も年齢が高かった男性は 95 歳、女性は 90 歳であり、その男性が表彰式に向かって歩く姿は、背筋が伸びており、青年のようであった。
・ 趣味や生きがいをみつけて暮らすことができれば 100 歳まで生きる方が増えるのではと思う。

長岩会長）

・　介護保険へ話題が集中してしまっていたが、健康づくりや介護予防、生きがいづくりもこの計画には含まれており、そういった点からのご指摘かと思う。

木村委員）

・　計画書全体としては良くできている。
・　問題となるのは介護人材の確保と育成だと思う。施設があっても定員まで利用されない原因の 1 つには、介護人材の不足があり、介護ロボットの活用が記載されているが、まだ少し先の話ではないか。
・　今回策定する第 8 次計画の実績をどのように積み重ねていくかが非常に大事だと考える。

長岩会長）

・　手が届きにくい課題もあるが、話題にして意見交換することが先々へ活きてくる。

（２） その他

事務局）

・　事務局にて、議事録を作成後、委員の皆さまに確認していただき、公開させていただく。
・　次回委員会は令和 3 年 1 月 15 日に開催し、2 月中にパブリックコメントを実施する予定。

３．閉会